福島市立清明小学校　　学校だより　令和２年９月１８日　第２４号　　〈文責〉校長

みんなとともに笑顔いっぱい　ー「１０１」新たなるステージへ ー

みんなとともに

２学期が始まって、ほぼ１ヶ月が経ちました。コロナ禍の中でしたが、順調なスタートを切ることができました。授業参観でもご覧いただきましたように、どの学級も「学びの雰囲気」がしっかりできています。素直で前向きな心を持つ子どもたちと、経験が豊富で力のある教員の指導が、うまくコラボしているのではないかと考えています。ここまでの保護者の皆様のご支援に感謝いたします。

「週末作文」のススメ

例年「文集 すかわ」を作成するために、３学期に「思い出作文」を書く機会を設けていました。今年度は印刷物としての「文集 すかわ」は作らない予定ですが、２学期に主に「意見文」を書く機会を設けることにしました。

「週末作文」と題して家で書くようになりますが、担任から出た“お題”について、「文章の型」を意識しながら“自分の考え”を表します。担任には早めに“お題”を出すように話していますので、提出の「月曜日」に間に合うよう、それぞれが進めるようになります。

保護者の方へのお願いは、「お子さんの作文に表れた“考え”や“表現”を、一緒に楽しんでほしい」ということです。子どもたちの生きていく時代は、ますます「自らの個性を発揮して周りへと影響を広げていく時代」になると考えます。“ユニークな視点”からの文章、大歓迎です。いまから楽しみにしています。

さて、３年生のノートを見ていたら、自主学習で作文を書いている子がいました。「思い出作文」ではなく、まさに「意見文」になっている、と感じましたので、了承を得て、ここに紹介します。（あくまで人に見せるためではなく、自らの学びのために書いたものです。勝手に改変せずそのまま載せました。）

「私が思ったこと」　　３年　加藤　心絆

今日学校から帰ってきてとても見入ってしまったニュースがありました。それは全米テニスで、ゆう勝した「大坂なおみせん手」の事でした。大坂せん手は、黒人さべつにより、なくなった人たちを思ったり意味もなく黒人をころしたけいさつかんたちがつみになっていない事を世界中の人たちにメッセージする姿がとてもいんしょうてきでした。し合では、七枚のマスクを用意して、なくなった人たちの名前が書いてあるものでし合をしていました。きっと大坂せん手が、名前をマスクに書いていなかったらきっと、世界の人たちがどんな人だったか知らずにいたと思います。スポーツを通しても、世の中を悪い方からよい方に正しくする事ができるのだなと感じました。スポーツが少し苦手だけれど、だれかに思いを伝える事や、感動を感じてもらえる事ができるようがんばりたいなと思いました。

※ 読んでみて、「出来事」－「自分が感じたこと」－「自分のこれから」という流れがとてもよいと感じました。

【校長のつぶやき】　その４３　「分身の術が使えたら・・・」

２学期が始まってから先週まで、登校時は昇降口前にいて、「検温」に携わっていた。職員の協力を得て検温作業も軌道に乗ったので、今週は“外回り”をしている。

学区内を歩くと、様々な気づきがある。「川の水がいつもより多いな」とか「新しい家が建ったな」とか違いに気づくこともあるし、「Ａさんは、お家の人と来ているんだな」とか「あの方は、Ｂさんのお家の方なんだな」とか校長室にいては分からない気づきもある。思いがけず卒業した中学生と出会い、一言二言交わす会話も楽しいものである。暑さも和らぎ、３０～４０分のウォーキングは私にとってちょうどいい。

でも、昇降口にいると“全員”の子どもたちに会えるのだが、“外回り”に行くと、すれ違う“一部”の子どもにしか出会えない。「Ｃさんは、泣かずに来たかな」「昨日遅刻したＤさんは、今日はもう着いたかな」あれこれ考えながら学校に着くと、げた箱にシューズがあるかを確認する。

昇降口にもいたいし、学区内を歩きながら登校の様子も見てみたいし、体が一つしかないのが悩ましい。分身の術が使えたら・・・と思うこの頃である。

※ ９月２６日（土）の「教育講演会」は、まだまだ参加が可能です。来週も申し込みをお受けします。